

トマトの長期どり促成栽培における総合的病害虫管理の実践マニュアル					
[要約] 長期どり促成栽培トマト(8月下旬~9月上旬定植)において、天敵類と選択的農薬を組み合わせた総合的病害虫管理を実践するためのマニュアルを作成した。					
担当部署	生産環境研究所・病害虫部・野菜花き病害虫研究室			連絡先	092-924-2938
対象作目	野菜	専門項目	病害虫	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

平成9年~11年に国庫助成研究「減農薬・省力生産を可能にするマメハモグリバエ寄生性土着天敵の有効活用技術の確立」において、促成栽培トマトで主要害虫に対する天敵類の利用技術を確立するとともに、天敵類に影響の少ない農薬を選抜した(平成11年度成果情報)。さらに、平成12年から着手した県単特別研究「生物的防除資材を利用した総合的病害虫防除技術の確立」の中で、天敵類と選択的農薬を組み合わせた総合的病害虫管理の有効性を現地圃場で確認した。そこで、促成栽培トマトでの総合的病害虫管理の普及を推進するための実践マニュアルを作成する。(要望機関名:八女普、生産流通課(H6))

[成果の内容・特徴]

1. コナジラミ類に対して、定植直後と2月上旬に、寄生性天敵のオンシツツヤコバチを1週間間隔で4回、1回につきマミーカードを40~50枚/10a放飼する(表1:マニュアルの抜粋および別紙マニュアル)。
2. ハモグリバエ類に対して、定植直後と2月中旬に、寄生性天敵のイサエアヒメコバチを1週間間隔で4回、1回につき200頭/10a放飼する(表1および別紙マニュアル)。
3. その他の病害虫に対して、選択的農薬を用いる。ただし、非選択的農薬を使用する必要がある場合には、スポット散布をおこなう(別紙マニュアル)。

[成果の活用面・留意点]

1. 長期どり促成栽培トマトでの総合的病害虫管理の普及を推進するための資料として活用できる。
2. 主要作型の10月中旬定植の促成栽培トマトでは、別途マニュアル(作成予定)を活用する。

[具体的データ]

表1 促成栽培トマト（8月下旬～9月上旬定植）での総合的病害虫管理

月週	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
管理作業	定植		マルハナバチ導入							芯止め	収穫終了		
コナジラミ類	定植後の天敵放飼 1 2 3 4 週 週 週 週 日 日 日 日	(この時期に発生が増加した場合は チェス水和剤で抑える)				年明けの天敵放飼 1 2 3 4 週 週 週 週 日 日 日 日 (2月中旬から開始 遅れないように)	(この時期に発生が増加した場合は チェス水和剤で抑える)				5月下旬からは ワタシエアブル		
ハモグリバエ類	定植後の天敵放飼 1 2 3 週 週 週 日 日 日 (天敵放飼前に潜孔が多い場合は カスケード乳剤)	(発生が増加した場合は カスケード乳剤)				年明けの天敵放飼 1 2 3 週 週 週 日 日 日 (冬場に発生がなければ → 放飼する必要はない)	年明け放飼をしなかった場合 発生が増加すれば薬剤で対応する トリガード液剤、アフーム乳剤						
その他病害虫管理	トマトサビダニ 収穫前まで イオウフロアブル 収穫開始から マッチ乳剤・ケルセン乳剤のミックス散布				トマトサビダニ マッチ乳剤全面散布 ケルセン乳剤のミックス散布				5月下旬からは サバシエアブル、アフーム乳				
	ハスモンヨトウ・オオタバコガ BT剤、IGR剤								アブラムシ類 チェス水和剤全面散布 DDVP乳剤のミックス散布				
	疫病 ウドンコ病								灰色カビ病 葉カビ病				

[その他]

研究課題名：減農薬・省力生産を可能にするマメハモグリバエ寄生性土着天敵の有効活用技術の確立、生物的防除資材を利用した総合的病害虫防除技術の確立
 予算区分：国庫助成（新技術） 県特
 研究期間：平成9～11年、平成12年（平成12～14年）
 研究担当者：山村裕一郎・嶽本弘之・大野和朗